

(第三種郵便物認可)

代理店賠償セミナー開催

1日6件ペースで相談受ける

山梨代協



土屋会長

山梨代協(土屋会長)は10月26日、代理店賠償責任保険オンラインセミナーを開催した。当日は代協会員や保険会社など50名が参加するなか、元Chubb損害保険営業

開発本部長の杉山幹久氏による我々募集人への期待と要望の高まりとともに、手続きミスや説明不足によるトラブルも急増している。今回のセミナーを受けていただき、今一度必要性、重要性を認識いただきたい」と

セミナー開始に先立ち挨拶した土屋会長は「山梨代協会員の代理店賠償の加入率が全国よりわずかではあります。一方で、傾向にあります。一方で、昨今の社会環境の激変に

セミナーで杉山氏は、自身が代理店賠償責任事故の相談を日々行っていることに触れ、今年の7月末時点で1日に6件ペースで相談を受けており、年々相談件数が増加しているとした。また、加入代理店が約1万店いるなかで、1年間に1400件の相談をしており、中には1000万円以上の損害賠償請求が起きているケースもあるなど、賠償金額が増加傾向



杉山氏

にあると説明。こうした点も踏まえ「誤った説明により、契約者から訴訟提起、保険会社から求償されることもあるということを知っていただきたい」と訴えた。

保険代理店業務においては「大多数の契約者は保険についてよく分かっている」ということ、「契約者を取り巻くリスクやニーズに応じて保険をオーダーメイドする必要がある」ということ、「数多くの契約者に対応することを求められること」が特徴とした杉山氏は、特に「うっかり、うろ覚え」による虚偽説明には注意を払ってもらいたいと指摘。自分に関係ないと思う人がいるかもしれないが、自分事としてほしいと述べた。

そして、代理店賠償責任保険には事故相談機能と保険金準備機能の2つの機能があるとし、特に事故相談機能は、万が一のトラブル時には心強いものであるため、加入により安心して代理店の募集行為に専念してほしいとした。